慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | Keio-South Florida joint seminar "Psychology and neuroscience seminar" （1月15-16日 南フロリダ大学) |
| Sub Title | |
| Author | 田谷, 文彦(Taya, Fumihiko) |
| Publisher | 慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点 |
| Publication year | 2010 |
| Jtitle | Newsletter Vol.12, (2010. 6) ,p.4- 4 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 慶應・南フロリダ大学合同セミナー |
| Genre | Research Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000012-0042 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 合同シンポジウム "Keio-Gachon NRI Joint Symposium"

### Keio-Gachon NRI Joint Symposium

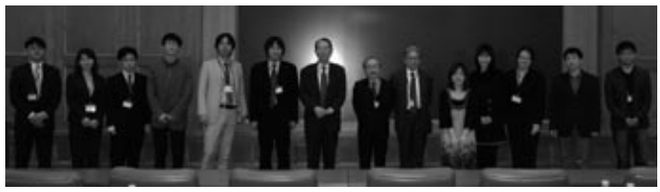
（2月27日　三田キャンパス東館8階）

2010年2月27日、本塾三田キャンパスにてKeio-Gachon Neuroscience Research Institute (NRI) 合同シンポウムが開催された。嘉泉医科大学 (Gachon University of Medicine and Science) は、本拠点のアジアにおける海外連携拠点であり、合同シンポジウムの開催は、昨年3月に続き2度目となった。今回は、同研究所と本拠点から若手研究者4名ずつによる自身の研究についての発表に加え、本拠点の小川誠二訪問教授（東北福祉大学感性福祉研究所・特任教授）とGachon NRI所長のZang-Hee Cho教授から基調講演が行われた。

Gachon NRI側の若手研究者からは、視覚処理の認知神経基盤やその研究方法論、音楽および非音楽聴取に関わる神経基盤の相違、ハングル文字および漢字処理の神経基盤に関する発表が行われた。いずれの研究者もfMRI研究に精通しており、同研究所の研究体制の充実が伺えた。本拠点の若手研究者からは、経済的な意思決定課題遂行時や空間探索課題実施時の脳活動、美的価値判断の神経基盤、感情と身体内部感覚の神経基盤の相違に関する発表が行われた。拠点発足以来の研究成果の蓄積を表すものであった。いずれのトピックも国際的に注目されており、最新の研究成果の共有は連携拠点間の協力体制のもとで研究を進める礎になりうる有意義なものであった。韓国、日本双方の若手研究者にとって、国際的な研究活動を行うためには英語による発表や議論のスキルの習得が重要な課題である。本シンポジウムは、この点に関して研鑽を積める貴重な機会でもあった。

基調講演は、韓国・日本の脳画像研究の第一人者による講演とあって、拠点外からの参加者も数多く見られた。小川特任教授からはfMRI研究の変遷と最新の研究方法論をお話し頂き、参加者は自身の研究への応用方法を模索しながら熱心に耳を傾けていた。Cho教授からは高磁場MRIやPETを備えたGachon NRIの世界最高峰の研究環境や、世界トップレベルの研究拠点設計構想についてお話を頂いた。シンポジウムの閉会にあたっては、今後のさらなる研究協力体制の強化や共同研究の推進についての確認がなされた。（寺澤悠理）

The 2nd Keio-Gachon NRI joint symposium was held at Keio University. Keynote speeches by Prof. Cho and Prof. Ogawa were given and 8 young scientists presented their own researches.



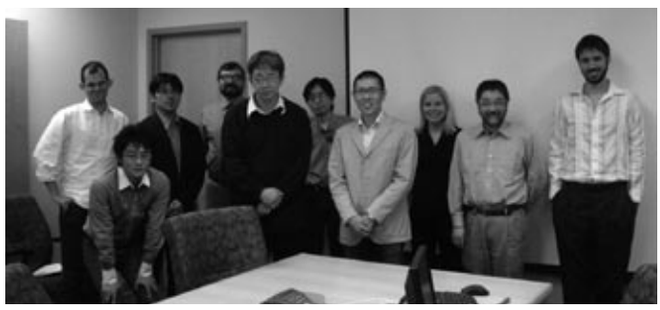
## 慶應・南フロリダ大学合同セミナー "Psychology and Neuroscience Seminar"

### Keio-South Florida Joint Seminar "Psychology and Neuroscience Seminar"

（1月15—16日　南フロリダ大学）

2010年1月15、16日の二日間にわたり、南フロリダ大学にて慶應・南フロリダ大学合同セミナー"Psychology and Neuroscience Seminar"が、清水透南フロリダ大学教授の差配により開催された。南フロリダ大学は、2008年より本拠点と国際提携を結んでおり、今回は第一回目となるセミナーである。

最初に、南フロリダ大学心理学科長のMichael Brannick博士およびCenter of Excellence for Aging and Brain Repair（CABR）所長のPaul Sanberg博士から挨拶があった。初日は、議長を務めるCABRのCesario Borlongan博士の開幕宣言の後、慶應側から参加した辻井、伊澤、田谷の三名が発表を行った。次いで、南フロリダ大学側から、Alcohol and Substance Use Research Institute (ASURI) の所長を務めるMark Goldman博士がアメリカにおける心理学の最新のトピックを概観し、初日のセミナーを終えた。二日目は、清水透博士が議長を務め、南フロリダ大学の若手研究者が相次いで発表を行った。清水研究室のTadd Patton氏が鳩の視覚系を中心に鳥類の脳について、EEGのP300に関する研究で著名なDonchin博士の研究室からSiri-Maria Kamp氏がP300と記憶の関係についてVon Restorff効果を利用した実験について、CABRのYuji Kaneko博士が中枢神経系の回復過程について話をした。

セミナーの合間には、USF内の施設を見学した。清水博士やDonchin博士の研究室を初め、CABRやASURIを見学したが、いずれも研究設備が非常に整っており、南フロリダ大学の研究機関としての底力を感じた。今後、セミナーだけでなく、具体的な共同研究に結びつくことを期待したい。（田谷文彦）

The first Keio-South Florida Joint Seminar was held at University of South Florida on January 15th and 16th. We hope this would be a first step toward a concrete join research.